

第 78 回世界保健総会

2025 年 5 月 19 日（月）政府代表演説

○御列席の大臣、各国代表の皆様、日本政府を代表して本演説を行う機会をいただき、大変光栄に存じます。

○日本は、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の実現に向けて、WHO がそのコア・マンデート(中核的な使命)、特に、規範設定、関係者の招集(convening role)、そして感染症危機への対策といった使命を果たすことを支持しております。

○日本は、このたび WHO パンデミック協定(仮称)の合意に至ったことを歓迎します。これは、WHO が規範設定と危機対応の機能を果たすことが示された好例であります。

○健康危機に関しては、日本は、「国立健康危機管理研究機構」、通称 JIHS(ジース)を本年4月に発足させました。JIHS と WHO や他の加盟国・地域との間で協力していくことを期待しています。

○また、健康危機対応の上では、台湾のように公衆衛生において顕著な成果を上げている地域の経験を活かすべきと考えます。疾病拡大を防ぐ世界的な取組を損なう地理的空白を生じさせないために、いかなる地域も取り残されるべきではありません。

○WHO はまた、UHC の達成をはじめとした重要なアジェンダを主導する役割を担っています。日本は、低・中所得国における保健財政の強化のため、世界銀行と連携して「UHC ナレッジハブ」を設立する WHO の取組を全面的に支持します。

○国際社会は今なお、山積する健康課題に直面しています。日本は、今もなお続くロシアによるウクライナ侵略を明白な国際法違反として強く非難します。我が国は、公衆衛生の脅威から国民を守るためのウクライナ政府の努力を今後も支援してまいります。

○また、日本はガザにおける壊滅的な人道危機に深い懸念を表明します。停戦合意の継続に向けた真摯な努力を強く求めます。

○「すべての人の健康」の実現に向け、WHO がグローバルヘルスの体制の中核的存在として、より効果的に機能できるよう、テドロス事務局長も努力されていると認識しており、日本政府としても支援してまいります。

○御清聴、誠にありがとうございました。